

弘中 聡浩

パートナー

Tel : 03-6250-6344(Direct)

Fax : 03-6250-7200

E-mail : a_hironaka@jurists.co.jp



訴訟・紛争解決グループのパートナーであり、大型・複雑な国内・国際訴訟、製造物責任訴訟、租税訴訟、国際仲裁等を担当しています。

大型訴訟の分野では、日本の著名企業が米国の投資銀行の関連会社や米国の著名ヘッジファンド等から提起された、請求額合計483億円に及ぶ6件の損害賠償請求訴訟につき、すべて完全な請求棄却判決を得て確定させた経験があります。また、企業地震保険のリスク移転のためのクロスボーダーの再保険取引に関してされた課税処分に関し、日本の損害保険会社を代理して約67億円の還付を得た実績もあります。さらに、クロスボーダーのレポ取引に関してされた源泉所得税の納税告知処分に関し、日本の信託銀行を代理して約80億円の還付を得た実績もあります。

その他、緊急仲裁人手続を含む国際仲裁手続(ICC、SIAC、AAA-ICDR、JCAA)、複雑な製造物責任訴訟、クロスボーダーM&A取引を巡る巨額紛争、保険金請求、会社訴訟、買取価格決定手続、使用者責任訴訟、投資関連訴訟、中東及びアジア地域のプラントの建設の遅延等を巡る国際建設紛争等に関して、国内・海外の著名な企業に助言し、成果を上げました。クラスアクション(集団訴訟)を含む米国の訴訟手続、米国のディスカバリー手続、海外の訴訟のための日本における司法共助手続、海外の紛争において問題となる日本法に関する助言及び鑑定意見書作成の実績もあります。

『国際仲裁と企業戦略』(共編著、有斐閣)、『国際租税訴訟の最前線』(共編著、有斐閣)、Yasuhei Taniguchi, et.al. (eds.), Civil Procedure in Japan(執筆分担、Juris Publishing)等、民事訴訟、国際訴訟・仲裁、租税訴訟の分野の著作が数多くあります。Chambers Global / Asia-Pacific 2019ではDispute Resolutionの分野において、またWho's Who Legal Japan 2018ではLitigation / Arbitration / Product Liability Defenceの各分野において、個人としてランキングされています。Who's Who Legal Japan 2015は、“(an) experienced litigator who 'is one of the first names that come to mind for high-stake lawsuits.’ ”と評価しており、Who's Who Legal Japan 2016

OFFICES

TOKYO

NAGOYA

OSAKA

FUKUOKA

BANGKOK

BEIJING

SHANGHAI

DUBAI

HANOI

HO CHI MINH CITY

JAKARTA*1

NEW YORK

SINGAPORE

YANGON

HONG KONG*2

*1 ASSOCIATE OFFICE

*2 AFFILIATE OFFICE

は、“Internationally renowned and universally respected lawyer”と評価しています。また、Asian Legal Business 2011年8月号は、“one of the firm’s many ‘go-to’ partners to perform strongly.”と評価しています。2015年及び2016年には、Asialaw Asia-Pacific Dispute Resolution Awards: Disputes Star of the Year, Japanに選出されました。

登録

第一東京弁護士会(1996年登録)
ニューヨーク州弁護士(2004年登録)

学歴

1993年 東京大学法学部第一類卒業
2003年 ハーバード大学ロースクール(LL.M.)
2019年 Diploma in International Arbitration, Chartered Institute of Arbitrators

経歴

1998-2000年 横浜地方裁判所判事補
2003-2004年 アーノルド・アンド・ポーター法律事務所(ワシントンD.C.)勤務

主な論文/書籍

YASUHEI TANIGUCHI, ET. AL. EDS., CIVIL PROCEDURE IN JAPAN (Contributor, 3rd ed., Juris Publishing, 2018)

GAR Know how - Litigation 2018 (Japan Chapter) (2018)

The Product Regulation and Liability Review (5th ed., Japan Chapter) (2018)

『租税法概説(第3版)』(共編著、有斐閣、2018年)

藤倉皓一郎=小杉丈夫編『衆議のかたち 2 アメリカ連邦最高裁判所判例研究(2005~2013)』(共著、羽鳥書店、2017年)

Exploring Practicality: Using Japanese Courtrooms for Evidence Gathering in International Arbitration, 9 Dispute Resolution Int’l Vol. 9, No. 2 (2015)

Commercial Litigation (2nd ed., Japan Chapter) (2015)

『国際仲裁と企業戦略』(共編著、有斐閣、2014年)

『移転価格税制のフロンティア』(共編著、有斐閣、2011年)

『国際租税訴訟の最前線』(共編著、有斐閣、2010年)

「租税証拠法の発展－証明責任に関する問題を中心として」（金子宏編『租税法の発展』（有斐閣）所収、2010年）

「我が国の租税法規の国際取引への適用に関する一試論」（『グローバル化の中の日本法』（商事法務）所収、2008年）

Recent Trends in International Arbitration in Japan, Co-author, *The Asia-Pacific Arbitration Review* (2007)

藤倉皓一郎=小杉丈夫編『衆議のかたち アメリカ連邦最高裁判所判例研究(1993～2005)』（共著、東京大学出版会、2007年）

Jurisdictional Theory “Made in Japan” : Convergence of U.S. and Continental European Approaches, *Vanderbilt Journal of Transnational Law*, Vol. 37, 1317 (2004)

受賞歴

- 2019年 Chambers Global 2019 の Dispute Resolution 分野にてランクイン
- 2018年 Chambers Asia 2019 の Dispute Resolution 分野にてランクイン
- 2011-2018年 *Internal Tax Review* の Tax Controversy Leaders 2011-2018 にてランクイン
- 2015-2016年 *Asialaw Asia-Pacific Dispute Resolution Awards: Disputes Star of the Year*, Japan 2015 及び 2016 を受賞

会員

- 2001年- 日本民事訴訟法学会
- 2006年- 日本仲裁人協会
- 2016年- 仲裁 ADR 法学会
- 2019年- Fellow, Chartered Institute of Arbitrators

言語

日本語、英語